

令和5年度「スマホやPC、ゲーム機等とのよりよい関わりに向けたアンケート」 調査結果について

I 趣旨

教員や小児科医らで構成する「子どもとメディア信州」と長野県・長野県教育委員会が、児童生徒のICT機器の利用実態や保護者の認識を把握し、安全安心かつ積極的な利活用の推進にむけた検討資料とするため、令和2年度から本調査を実施している。

II 調査対象および回答数

調査対象	回答数(人)	学年別内訳(人)
小学生	55,190	3年生 13,402、4年生 13,532、5年生 13,818、6年生 14,438
中学生	35,893	1年生 12,204、2年生 11,694、3年生 11,995
高校生	6,688	1年生 2,778、2年生 1,865、3年生 2,045
保護者	小 12,605	3年生 3,120、4年生 3,195、5年生 3,136、6年生 3,154
	中 8,260	1年生 2,816、2年生 2,842、3年生 2,602
合計	児童生徒 97,771人 保護者 20,865人	

[注] ○小中学生は全市町村で実施 高校生は県立27校、私立1校、計28校が参加 特別支援学校は4校が参加

III 実施時期および調査方法

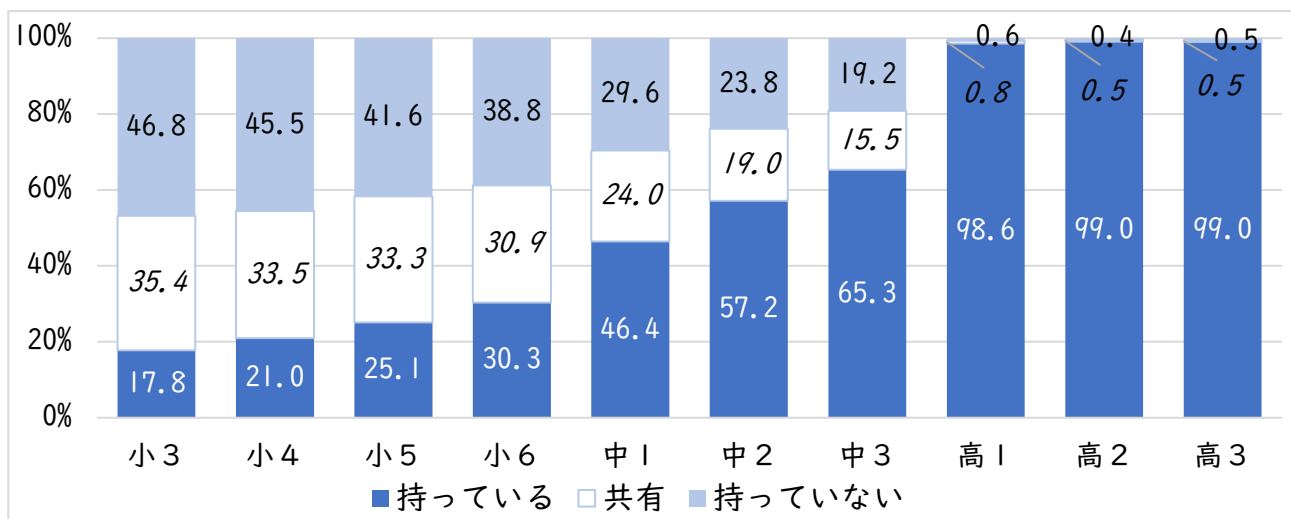
- ・児童生徒調査は5月～9月に各学校で1人1台端末からフォームに入力して回答
- ・保護者調査は7・8月に学校を通じて協力を呼び掛け、所持する端末からフォームに入力して回答

IV 調査の結果 (※は小数第1位以下で四捨五入してあるため、合計しても100%にならない場合がある)

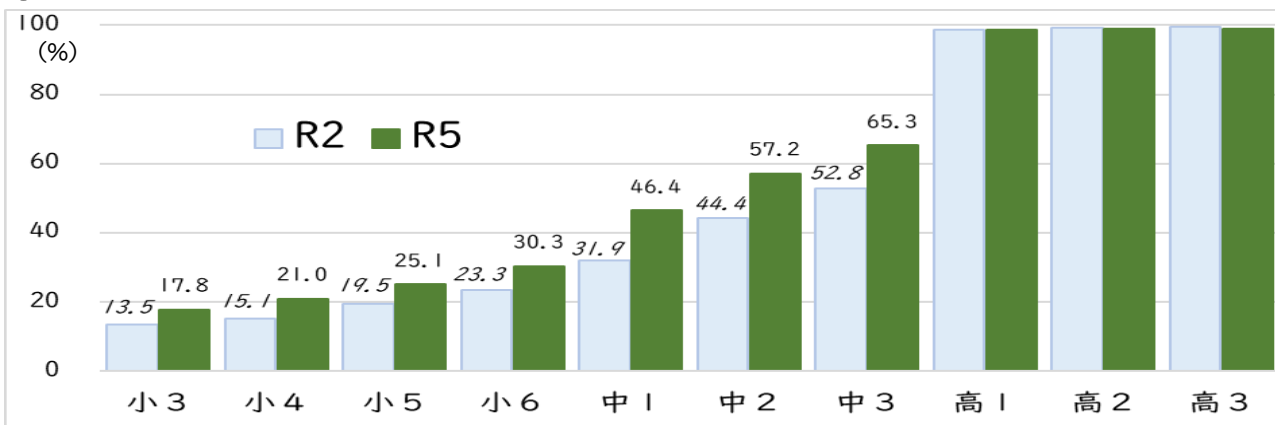
I スマートフォンの所有とICT機器の用途、使用時間など

(1) スマートフォンの所有状況

①令和5年度の所有状況

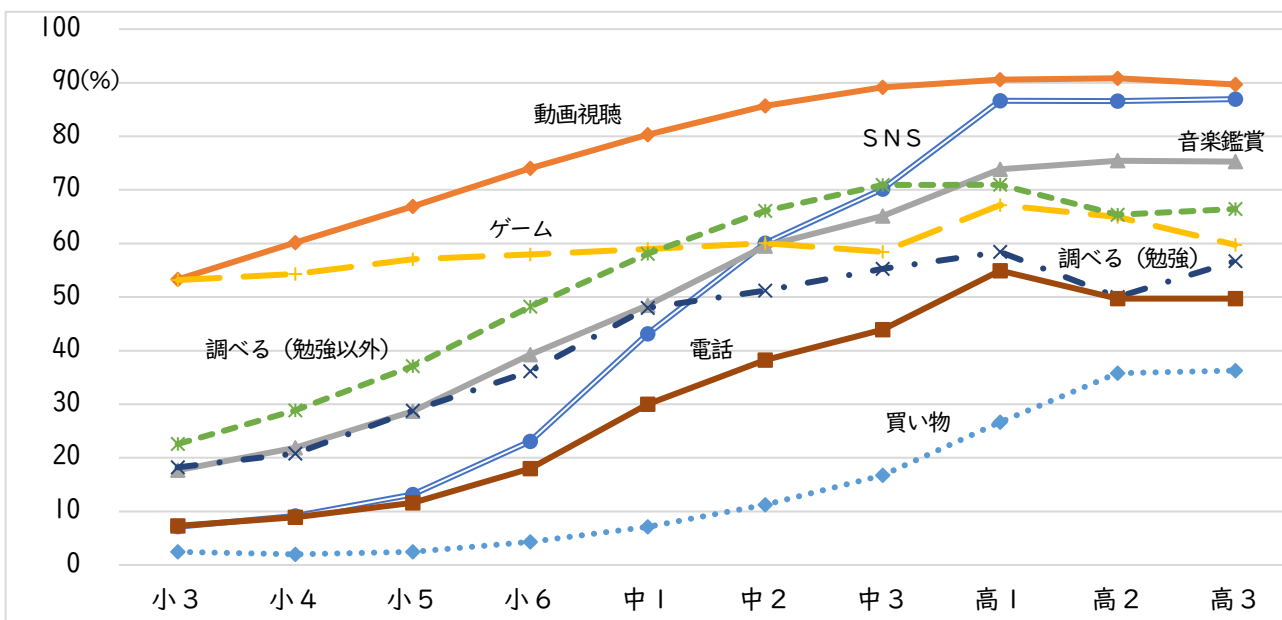


②自己所有率の経年変化（令和2年と令和5年との比較）



- ・「家族と共有している」も含めると、小学校3年生から6年生の5割以上が家庭でスマートフォンを使える状況にあると考えられる。
- ・小学6年生の30.3%、中学3年生の65.3%がスマートフォンを個人所有していると回答しており、令和2年度と比較して増加している。

(2)学年別「スマホやパソコン、タブレットでよくやっていること」（児童生徒・複数回答）



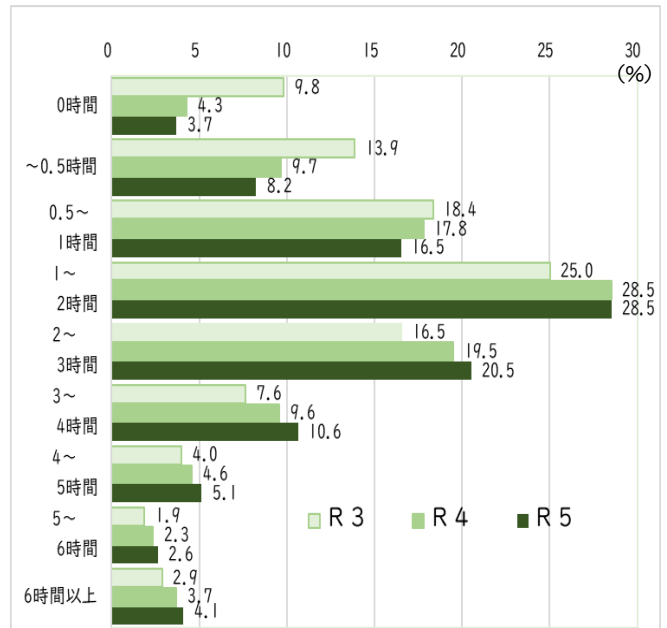
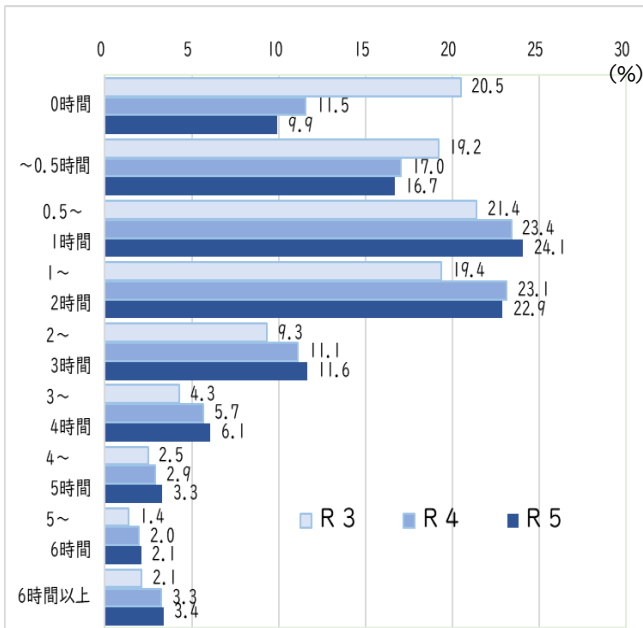
(3) 家庭で何時間使用しているか（平日・学習）について（児童生徒）

(%)		1時間未満	1～2時間	2～3時間	3～4時間	4～5時間	5～6時間	6時間以上
小学生	R 3	86.8	6.8	2.7	1.4	1.0	0.5	0.8
	R 4	82.5	9.1	3.5	1.9	1.1	0.7	1.3
	R 5	82.2	8.8	3.9	1.9	1.0	0.8	1.3
中学生	R 3	81.3	10.0	4.5	1.9	1.1	0.4	0.8
	R 4	77.4	12.1	5.3	2.3	1.1	0.7	1.0
	R 5	77.4	12.1	5.3	2.3	1.2	0.6	1.0
高校生	R 3	74.0	13.1	5.8	3.0	1.8	0.6	1.7
	R 4	67.9	15.2	6.9	4.4	2.3	1.3	2.1
	R 5	66.0	16.2	7.6	4.0	2.2	1.4	2.6

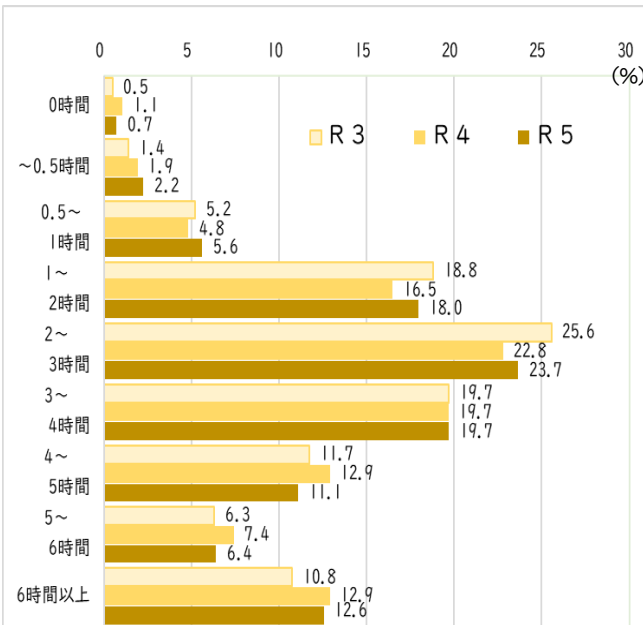
(4) 家で何時間使用しているか (平日・学習以外) について (児童生徒)

①小学生

②中学生



③高校生



- ・ICT機器の用途は、動画視聴が全年代で最も高く、中学生になるとSNS利用の割合が高くなる。
- ・「平日の学習での使用時間」は、令和3年から4年は増加したが、今回の調査では変化は見られなかった。
- ・「平日の学習以外での使用時間」は、小中高生ともに令和3年から毎年増加傾向にある。
- ・高校生の半数が「平日の学習以外での使用時間」が3時間を超え、約8人に1人が6時間を超えている。

(5) 何時ころまで使用しているか (平日・学習以外) について (児童生徒)

(%)	8時前	9時	10時	11時	12時	1時	2時	3時/3時過ぎ
小学生	45.5	37.8	10.9	2.9	1.3	0.6	0.3	0.6
中学生	13.8	27.5	28.4	16.9	8.3	2.8	1.2	1.1
高校生	2.1	7.9	21.2	28.9	26.1	8.8	3.1	1.8

【考察】

- 一日の総使用時間 (在校中の使用時間+家庭での使用時間) が長時間に及んでいる子どもについて、視力の低下といった身体への影響が心配される。
- 社会全体で子どもの情報活用能力の育成を支援するために、子どもたちがいつでもICT機器を使える状況にあるという実態を広く社会に周知することが必要であると考えます。

2 児童生徒と保護者の認識

(1) ネットのトラブルについて

①スマホ等を使って困った(心配な)事は(児童生徒・複数回答)

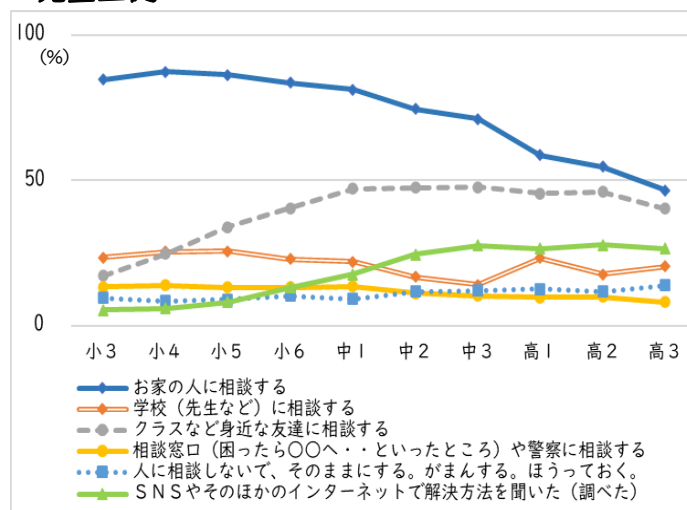
(%)	勉強中や寝ているときラインやショートメールなどが来て困った	ネットやゲームをしていて、お金がかかるのか心配になった	アダルトの広告や怪しい広告が出てきていやな思いをした	オンラインゲームのボイスチャットでいやな思いをした(けんかや脅しなど)	迷惑メールがたくさん来るようになった	SNSやメールでいやな思いをした(しつこい、悪口、いじめられた)	課金でおこづかいが減ってしまったことがあつ課金が多くなかなかやめられない	個人情報、動画、写真を無断でアップされて嫌な思いをした	困ったことや心配なことは起きていない
小学生	2.8	6.0	2.7	3.8	0.8	1.0	1.4	0.6	50.6
中学生	8.3	3.8	4.1	2.6	1.7	2.2	1.1	1.2	57.8
高校生	10.3	3.4	4.9	2.3	4.0	2.8	1.9	2.1	58.7

②お子様に実際にトラブルが起きたことがありますか(保護者・複数回答)

(%)	ゲームのボイスチャットなどでトラブルになった	SNSで知らない人からメッセージが来た	SNS等で悪口を書かれたりいじめられたりした	動画や写真をアップされて(アップして)トラブルになった	友だちとお金に関するトラブルがあった	架空請求やワンクリック詐欺等の被害にあった	個人情報が流出した	SNSやゲーム、スマホのアカウントが乗っ取られた	裸などの写真を送れと言われた(一方的に送られてきた)	その他	起きていない
小学生保護者	1.7	1.0	0.4	0.2	0.3	0.2	0.2	0.1	0.1	1.5	94.7
中学生保護者	2.1	2.5	1.8	1.4	0.6	0.4	0.3	0.3	0.2	3.2	89.6

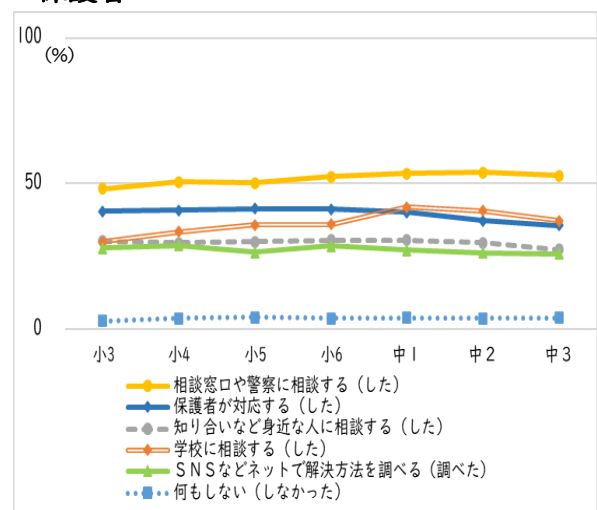
③トラブルが起きた時どうしたいか(どうしたか)

・児童生徒



*複数回答

・保護者



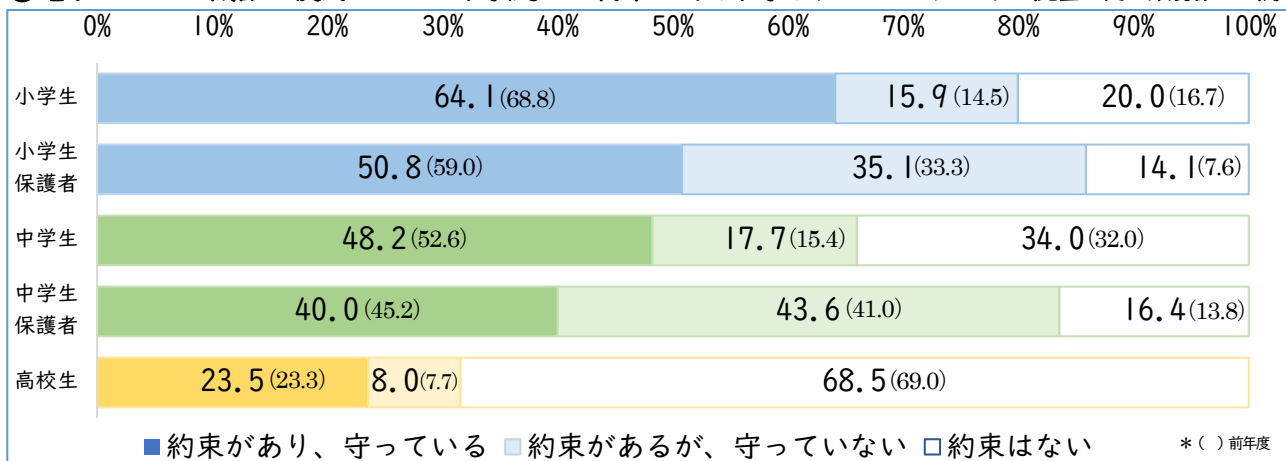
【コラム】 子どもとメディア信州

11年前に行われた全国学力学習状況調査質問紙調査結果データのスマホ所持率を見ると、長野県の順位は47都道府県中、小学校6年生が46位、中学3年生が45位でした。また、子どもとメディア信州が8年前に行ったアンケート調査では、当時は中学生のスマホ所持率が50%以下であるのに、高校生になると一気に100%近くになっていましたが、ここ数年で中学生のスマホ所持率が特に上昇し、今まで中学3年生から高校1年生に進むときに見られた所持率のギャップが小学校6年生から中学1年生に進むときに見られるようになったのです。

小学校5・6年生の保護者の方から、「スマホを買って欲しいとせがまれてどうしてよいか迷っている」といった相談が多くなりました。と同時に中学1年生でのネットトラブルや依存傾向の相談も多くなってきました。中学校に入学してきてから生徒に指導しても遅いというケースが増えてきており、小学校からの情報モラル・メディアリテラシー教育が急務です。特に注意したいのが、アンケート結果からもわかるように動画視聴、SNS利用、オンラインゲーム利用による依存の傾向で、学習以外の情報端末使用時間が年々長くなってきています。情報端末を通じてインターネット利用の時間が長くなれば、ネットトラブルに遭う確率や、健康被害の可能性が高まることとなります。情報化社会で情報端末を上手に利用すればより便利な暮らしの実現が可能ですが、「使いすぎ」は負の影響も大きくなることを、小学生のうちからきちんと学んでおく必要があります。また「トラブルが起きたとき」に「お家の人に相談する」が全学年で多い事も考えれば、家庭への啓発もまた急務です。

(2) 家庭でのルールや約束について

①電子メディア機器の使用について、家庭での約束があり、守られていますか？（児童生徒と保護者の比較）



(3) ICT機器使用についての保護者の願い

①お子さんがICT機器を使うようになって、よかったと感じていることを答えてください（保護者・複数回答）

(%)	知らないことをすぐ調べるようになった 知識または知識欲が増えた	積極的に学習に活用するようになった	家族間ですぐに連絡がとれるようになった	スポーツや音楽、美術などの活動を記録し、技術の向上につながっている	コミュニケーション力が高まった	スポーツや音楽、美術などの活動を公開し、いろいろな人から評価されている	よかったと感じたことはない
小学生保護者	45.3	23.9	18.9	12.4	4.5	1.7	26.9
中学生保護者	46.1	17.9	37.5	15.2	6.7	1.8	23.5

②お子さんがICT機器を使うことで、どのように成長してほしいと願いますか？（保護者・複数回答）

(%)	知らないことをすぐに調べて知識を広げてほしい	学習に活用して学力を伸ばしてほしい	いろいろな人と交流することで人間関係を広げてほしい	スポーツや音楽、美術などの活動を記録して技術の向上につなげてほしい	ネットを使った適切なコミュニケーションの力を身に付けてほしい	スポーツや音楽、美術などの活動を公開して多くの人に評価されることで自信をつけてほしい	特にない
小学生保護者	54.8	77.0	5.3	27.5	24.7	6.5	8.2
中学生保護者	56.5	77.1	6.2	29.1	26.4	5.8	7.2

- ・ 4割以上の児童生徒が「困った（心配な）こと」を経験していると推測されるが、保護者の多くが自分の子どもには「ネットのトラブルが起きていない」と回答している。
- ・ 子どもたちは、トラブルが起きた時には保護者に相談するという回答が最も多い。
- ・ 「利用の約束が守られているか」との問いについては、子どもと保護者との間に認識の違いがある。
- ・ 保護者は、子どもたちがICT機器を使って調べものをするのを肯定的にとらえている。

【考察】

- ネットで困ったことが起きた時に、誰にも相談できずにいる子どもがいることが心配される。
- 保護者は、ICT機器をさらに積極的に学習に活用することを望んでいると考えられる。

V 今後の取組について

1 取組の方向性

- 子どもたちが、デジタル市民の一員として必要な資質や態度、知識や技能を身に付けるとともに、困ったことが起きた時に周りの大人を頼りながら解決することができるように支援する。
- 社会全体でさらに連携を深め、子どもたちがデジタル社会の良き担い手となるための環境を整える。特に、子どもたちがデジタルの世界においても他者の人権を尊重して行動できるように、様々な場面で「子どもの権利」が尊重されるための取組を進める。

2 具体的な取組

- デジタル・シチズンシップ教育の視点を取り入れ、子どもたちのメディアリテラシーの向上を目指す。
 - ・「GIGAワークブック信州」の内容を更新するとともに、活用のための教職員向け研修会を開催
 - ・「高校生 ICT Conference」を開催し、デジタル社会の課題解決に高校生が積極的に係わる機会を作る。また、参加高校生による中学生に向けたメディアリテラシー講演会を開催
- デジタル性暴力が社会問題化するなか、子どもを性暴力の加害者にも被害者にもしないための取組を積極的に行う。
 - ・「性暴力防止のための児童生徒支援マニュアル（仮）」を関係部署と協力して作成し、学校での取組を支援
 - ・「子どもの性被害防止教育キャラバン隊」による子どもたちへの直接指導を実施
- 子どもから相談を受けた保護者が適切に対処するための方法や相談窓口などについて情報提供する。
 - ・家庭でのルールづくりやペアレンタルコントロールの実施を呼び掛けるチラシを作成し、小中学生及び保護者に配付
 - ・ネットのトラブルの対応方法と県内の相談窓口を紹介する Web サイト「信州ネットトラブルバスターズ」の更新と周知
 - ・長野県将来世代応援県民会議と連携し、保護者向けの情報モラル講演会の開催を支援
- 関係機関（県警、他部局、市町村、PTA、民間業者など）と連携した啓発を実施する。
 - ・本調査から明らかになった子どもたちのICT機器利用実態を共有するための情報交換会を開催
 - ・社会状況や調査対象の年齢を踏まえてアンケート項目を再検討し、子どもたちの利用実態や意識、保護者の認識や関心を把握するために引き続き調査を実施